

## 2 農業経営（個別経営）の平均的なすがた

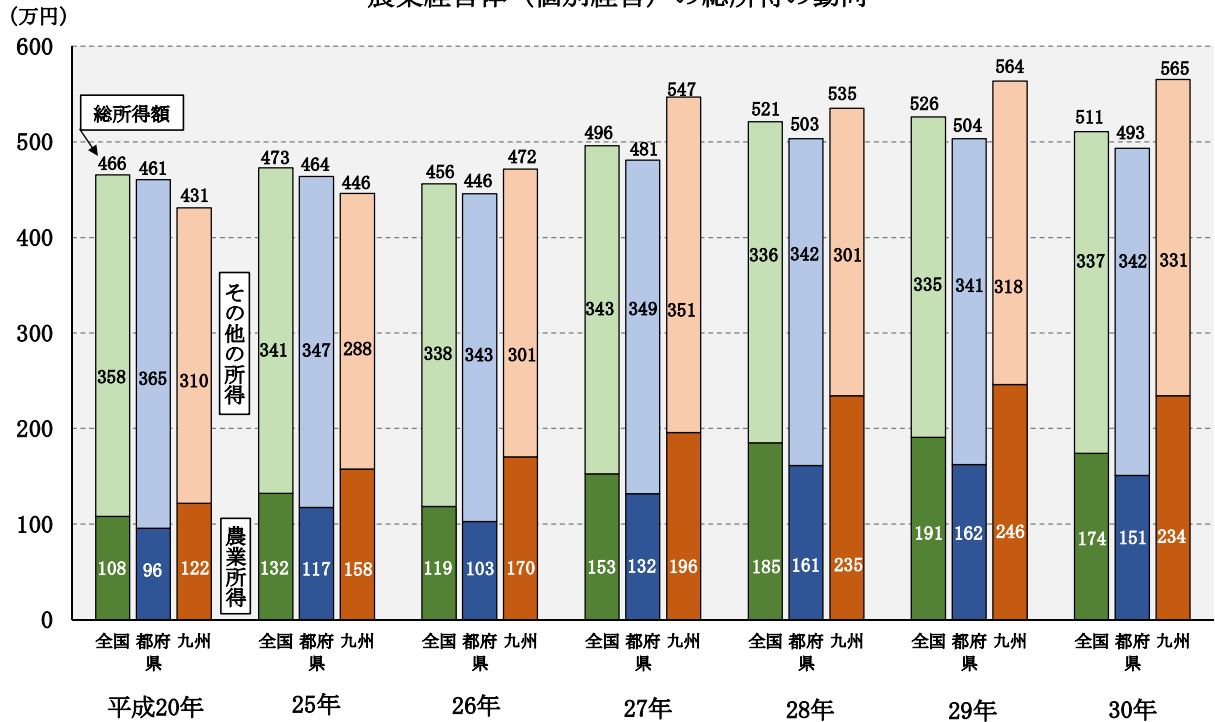
### (1) 所得の推移と地域別の比較

○平成30年の九州の1経営体当たり農業所得は234万円で、全国の174万円を3割以上上回っている。

○九州の農業所得は近年増加傾向にあったが、平成30年はやや減少。

○九州は、北海道を除く農業地域別では最も高い農業所得。

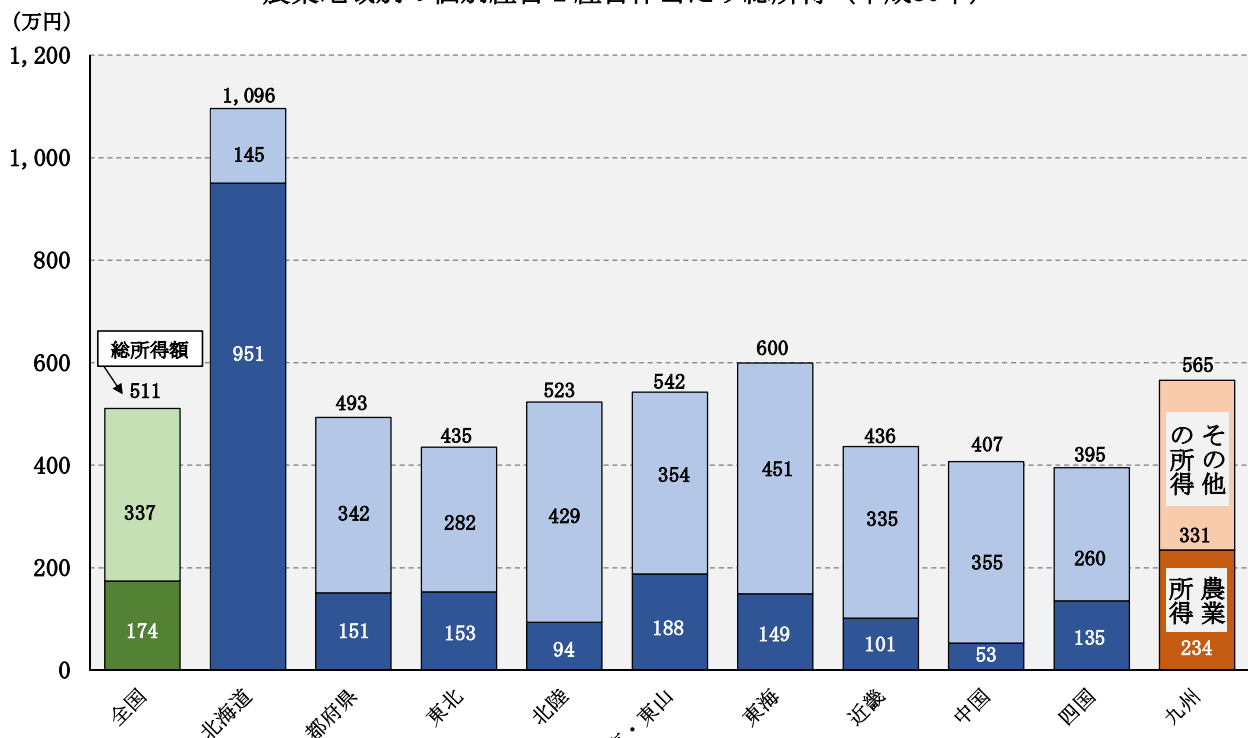
農業経営体（個別経営）の総所得の動向



資料：農業経営統計調査（経営形態別経営統計）

注：四捨五入のため総所得額と内訳の合計が一致しないものがあります。

農業地域別の個別経営1経営体当たり総所得（平成30年）



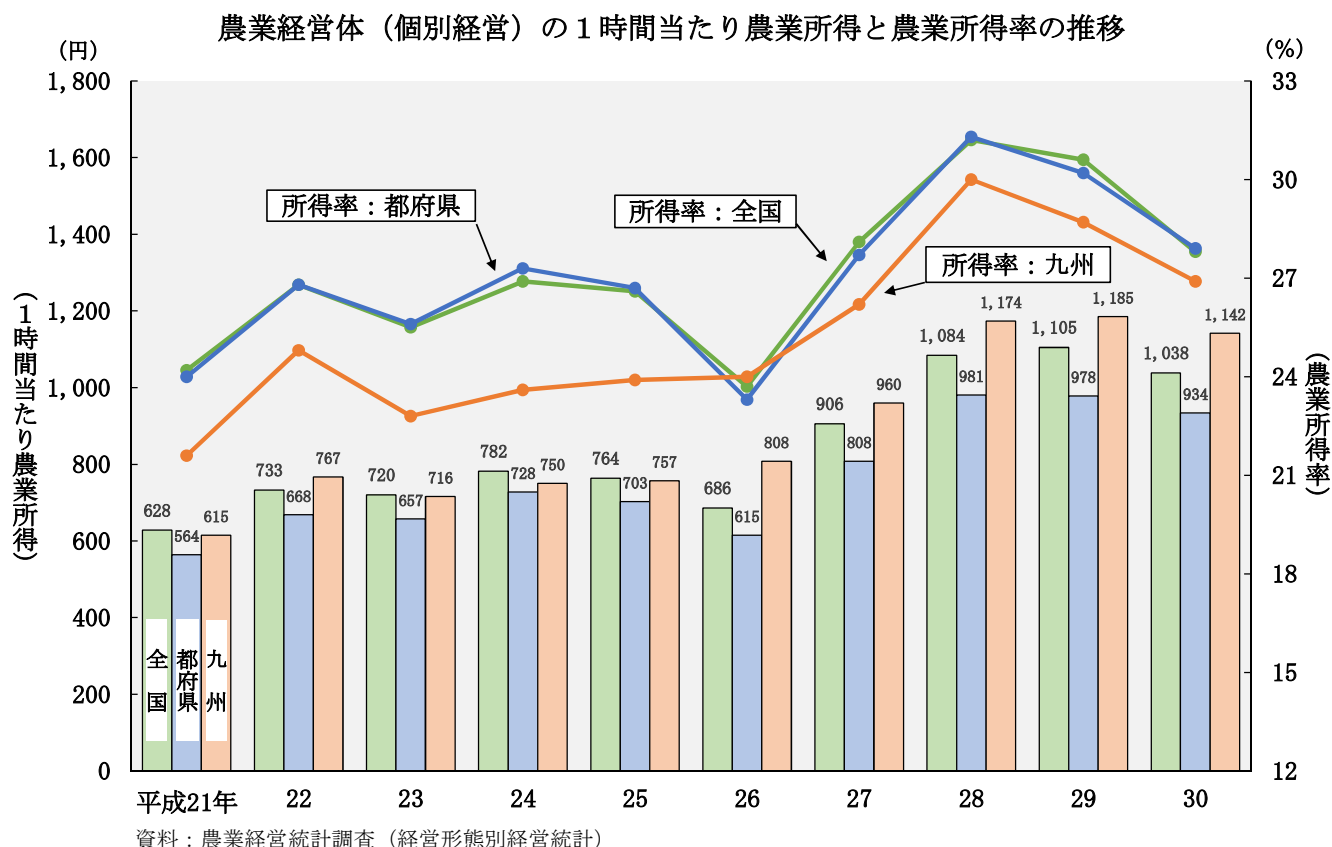
資料：農業経営統計調査（経営形態別経営統計）

注：四捨五入のため総所得額と内訳の合計が一致しないものがあります。

## 2 農業経営（個別経営）の平均的なすがた

### (2) 収益性の推移

- 九州の農業所得率は2年連続で減少。平成20年代前半は全国との差が大きかったものの近年は同水準で推移。
- 平成30年の農業労働1時間当たりの農業所得は1,142円で、平成26年以降は全国及び都府県を上回って推移。



#### 【指標の解説】

- ・ 「農業所得率」とは、農産物の売上（農業粗収益）に対する農家の手取り（所得）の割合を示す指標で、どのような営農部門であってもこれを高めていくことが重要です。
- ・ 「1時間当たり農業所得」とは、農業所得を投下した農業労働時間（家族）で除して計算したものです。今日の農業経営の在り方として、労働力の多投入による所得の確保ではなく、効率的な労働を行い労働収益性を高めていくことが重要であると考えられることから、家族経営の経営状況をみる場合のポイントとなる指標です。